

## 2025-2027 年度課題別研修「博物館とコミュニティ開発」に係る 参加意思確認公募について

独立行政法人国際協力機構関西センター（以下「JICA 関西」という。）は、以下の業務について、参加意思確認書の提出を公募します。

本業務は、開発途上国から研修員として日本に招いた文化遺産保全・地域開発・観光分野の開発の中核を担う人材に対し、所定の案件目標を達成するべく、地域コミュニティと結びついた博物館の運営ならびに博物館学全般について必要な知識や技術に関する研修を行うものです。

本業務の遂行にあたっては、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館（以下「特定者」という。）を契約の相手先として、JICA 所定の基準に基づき経費を積算したうえで契約を締結する予定です。

特定者は博物館学及び博物館を通じた社会連携に関して、学術分野及び民間分野を含む人材ネットワークのハブ機能を有しており、官民学の優れた講師を招請できるほぼ唯一の機関であることから、以下「2 応募要件」を満たし、本件業務を適切に実施し得る要件を備えていると考えますが、特定者以外の者で応募要件を満たし、本業務の実施を希望する者の有無を確認する目的で、参加意思確認書の提出を招請する公募を実施します。

### 1 業務内容

- (1) 業務名：2025-2027 年度課題別研修「博物館とコミュニティ開発」に係る研修委託契約
- (2) 案件概要：別紙2「研修委託業務概要」のとおり
- (3) 実施期間（2025 年度）：2025 年 10 月 2 日～2025 年 12 月 18 日（予定）
- (4) 契約履行期間（2025 年度）：2025 年 4 月 21 日～2026 年 3 月 13 日（予定）  
※2026 年度、2027 年度の実施時期未定。契約履行期間には、事前準備期間及び事後整理期間を含む。

### 2 応募資格

- (1) 基本的要件：
  - 1) 公示日において、令和 07・08・09 年度全省庁統一資格の競争参加資格（以下、「全省庁統一資格」という。）を有する者。又は、当機構の審査により同等の資格を有すると認められた者。
  - 2) 会社更生法（平成 14 年法律第 154 号）又は民事再生法（平成 11 年法律第 225 号）の適用の申し立てを行い、更生計画又は再生計画が発効していない者

は、参加意思確認書を提出する資格がありません。

- 3) 当機構から「独立行政法人国際協力機構契約競争参加資格停止措置規程」(平成20年10月1日規程(調)第42号)に基づく契約競争参加資格停止措置を受けていないこと。具体的には以下のとおり扱います。

ア. 資格停止期間中に提出された参加意思確認書は、無効とします。

イ. 資格停止期間中に公示され、参加意思確認書の提出締切日が資格停止期間終了後の案件については、参加意思確認書を受け付けます。

- 4) 競争から反社会的勢力を排除するため、参加意思確認書を提出しようとする者(以下、「提出者」という。)は、以下のいずれにも該当しないこと、及び当該契約満了までの将来においても該当することはないことを誓約していただきます。具体的には、参加意思確認書の提出をもって、誓約したものとします。

なお、当該誓約事項による誓約に虚偽があった場合又は誓約に反する事態が生じた場合は、参加資格を無効とします。

ア. 提出者の役員等(提出者が個人である場合にはその者を、提出者が法人である場合にはその役員をいう。以下同じ。)が、暴力団、暴力団員、暴力団関係企業、総会屋、社会運動等標榜ゴロ、特殊知能暴力集団等(各用語の意義は、独立行政法人国際協力機構反社会的勢力への対応に関する規程(平成24年規程(総)第25号)に規定するところにより、これらに準ずる者又はその構成員を含む。以下、「反社会的勢力」という。)である。

イ. 役員等が暴力団員でなくなった日から5年を経過しないものである。

ウ. 反社会的勢力が提出者の経営に実質的に関与している。

エ. 提出者又は提出者の役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、反社会的勢力を利用するなどしている。

オ. 提出者又は提出者の役員等が、反社会的勢力に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的若しくは積極的に反社会的勢力の維持、運営に協力し、若しくは関与している。

カ. 提出者又は提出者の役員等が、反社会的勢力であることを知りながらこれを不当に利用するなどしている。

キ. 提出者又は提出者の役員等が、反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有している。

ク. その他、提出者が東京都暴力団排除条例(平成23年東京都条例第54号)又はこれに相当する他の地方公共団体の条例に定める禁止行為を行っている。

- 5) 法人として「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」及び「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン(事業

者編) (平成 26 年 12 月 11 日特定個人情報保護委員会)」に基づき、個人情報及び特定個人情報等(※1)を適切に管理できる体制を以下のとおり整えていること。

(中小規模事業者(※2)については、「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン(事業者編)」別添「特定個人情報に関する安全管理措置」に規定する特例的な対応方法に従った配慮がなされていること。)

ア. 個人情報及び特定個人情報等の適正な取扱いや安全管理措置に関する基本方針や規程類を整備している。

イ. 個人情報及び特定個人情報等の保護に関する管理責任者や個人番号関係事務取扱担当者等、個人情報及び特定個人情報等の保護のための組織体制を整備している。

ウ. 個人情報及び特定個人情報等の漏えい、滅失、き損の防止その他の個人情報及び特定個人情報等の適切な管理のために必要な安全管理措置を実施している。

エ. 個人情報又は特定個人情報等の漏えい等の事案の発生又は兆候を把握した場合に、適切かつ迅速に対応するための体制を整備している。

(※1) 特定個人情報等とは個人番号(マイナンバー)及び個人番号をその内容に含む個人情報をいう。

(※2) 「中小規模事業者」とは、事業者のうち従業員の数が100人以下の事業者であって、次に掲げる事業者を除く事業者をいう。

- ・ 個人番号利用事務実施者
- ・ 委託に基づいて個人番号関係事務又は個人番号利用事務を業務として行う事業者
- ・ 金融分野(金融庁作成の「金融分野における個人情報保護に関するガイドライン」第1条第1項に定義される金融分野)の事業者
- ・ 個人情報取扱事業者

## (2) その他の要件 :

案件受託上の条件として、2025年度案件を第1回目として受託し、2027年度まで計3回、本案件を受託可能であること。なお、2025年度案件を受託した者とは、業務実施状況に特段の問題がない限り、2027年度案件まで継続契約を行う予定です(ただし、研修対象国の状況等予期しない外部条件の変化が生じた場合を除く)。また、契約は、年度毎に、業務量、価格等について見直しを行なったうえで締結します。

## 3 手続きのスケジュール

(1) 参加意思確認書	提出期間	2025年3月3日(月)から 2025年3月17日(月)12時30分まで
-------------	------	--------------------------------------

の提出	提出場所	〒651-0073兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 JICA 関西研修業務課（担当：小川）
	提出書類	別紙3 参加意思確認書 別紙4 資格審査申請書 別紙5 誓約書 応募要件に該当する全省庁統一資格を有していない者は、参加意思確認書に記載の提出資料一式（写し可）
	提出方法	メール、持参又は郵送で提出（郵送の場合は書留としてください。） メール送付先： ksictp1@jica.go.jp メールタイトル：【2025-2027 年度課題別研修 「博物館とコミュニティ開発」参加意思確認書の提出（団体・社名〇〇）】
(2) 審査結果の通知	通知日	2025年3月24日（月）
	通知方法	メール又は郵送で通知（参加意思確認書を提出した団体のみ、提出のあった方法に応じて通知） ※なお、特定者には、JICA 関西ホームページ上（調達選定結果）で通知する。
(3) 応募要件無し の理由請求	請求場所	〒651-0073兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 JICA 関西 研修業務課（担当：小川）
	請求方法	メール、持参又は郵送で提出（郵送の場合は書留としてください。） メール送付先： ksictp1@jica.go.jp  メールタイトル：【2025-2027 年度課題別研修 「博物館とコミュニティ開発」参加意思確認公募／応募要件無し の理由請求（団体・社名〇〇）】
	請求期限	2025年3月31日（金）
	回答方法	メール又は郵送で回答

#### 4 その他

- (1) 提出期限を過ぎて提出された参加意思確認書等の提出書類は無効とします。
- (2) 参加意思確認書等の提出書類の作成及び提出に係る費用は、提出者の負担と

します。

- (3) 提出された参加意思確認書等は返却しません。
- (4) 機構は提出された参加意思確認書等の提出書類を、その審査の目的以外に提出者に無断で使用しません。
- (5) 提出期限以降における参加意思確認書等の提出書類の差し替え、及び再提出は認めません。
- (6) 審査の結果、応募要件を満たさなかった者は、書面によりその理由について説明を求めることができます。(上記3(3)を参照ください。)
- (7) 公募の結果、応募要件を満たす者がいない場合は、特定者との随意契約手続きに移行します。また、応募要件を満たす者がいる場合は、指名による企画競争若しくは指名競争入札を行います。その場合の手続き詳細は、応募要件を満たす者及び特定者に対して連絡します。
- (8) 予算その他機構の事情により、当該手続きを中止する場合があります。
- (9) 手続きにおいて使用する言語及び通貨：日本語及び日本通貨に限ります。
- (10) 契約保証金：免除します。
- (11) 共同企業体：

共同企業体の結成を認めます。ただし、共同企業体を構成する社、又は代表者及び構成員全員が、上記2(1)(2)の応募資格を満たす必要があります。共同企業体を結成する場合は、「共同企業体結成届」(様式はありません。)を作成し、「参加意思確認書」に添付してください。結成届への代表者印及び構成員すべての社の社印は省略可とします。

- (12) メール送信の際の留意点は以下のとおりです。
  - ① メールの受信制限があるため、送付メールの容量は 20MB 以下としてください。
  - ② データ容量が大きい場合は、上記、参加意思確認書(別紙3)の PDF データを受領後 1 営業日以内に、提出された「参加意思確認書」に記載されているメールアドレスに対して、大容量データ受け渡しサイト(ギガポッド)の URL と、同 URL にログインするための ID とパスワードをメールで送付します(ただし、パスワードについては、別メールにて送付します)。同 URL にアクセスし、ID とパスワードを入力してログインの上、提出する書類を同サイトにアップロードした後、必ずメールにて担当者へ一報ください。
  - ③ 上記大容量データ受け渡しサイト(ギガポッド)が利用できない場合は、郵送又は持参で提出してください。
  - ④ JICA 関西では、受信内容を確認の上、24 時間以内に(土・日・祝日をはさむ場合は翌営業日の 17 時までに)受信確認メールを送付しますが、万一連絡がない場合は、JICA 関西へ問い合わせをお願いします。メール提出時刻から 24 時間以内の問い合わせは原則受け取らないので、電子メールにより提出する場合は早期の提出を推奨します。

担当部課：JICA 関西研修業務課

以 上

2025-2027 年度国別研修「博物館とコミュニティ開発」

研修委託契約 業務概要

以下の記載は、2025 年度に係るものである。2026 年度、2027 年度については、別紙1「業務仕様書」2. 応募要件（2）その他の要件を参照。

1. 研修コース概要

(1) 研修コース名

2025-2027 年度課題別研修「博物館とコミュニティ開発」

(2) 技術研修期間(予定)

全体受入期間：2025 年 10 月 2 日～2025 年 12 月 18 日

技術研修期間：2025 年 10 月 3 日～2025 年 12 月 17 日

(3) 研修員(予定)

① 定員：11 人(予定)

② 研修対象国：エジプト、スーダン、ナウル、パプアニューギニア、パラオ、フィジー、ベトナム、ホンジュラス、マーシャル、モルディブ

③ 研修対象組織・対象者：

＜対象機関＞人文社会系博物館および自然系博物館、ならびに文化遺産管理機関

＜対象人材＞次にあげるいずれかの分野において実務に携わっている博物館活動の専門職員：収集、ドキュメンテーション、保存、展示、教育、社会連携、その他の関連分野

＜資格要件、職務経験＞博物館にかかわる専門業務で3年以上の実務経験をもつこと

(4) 研修使用言語：英語（講義等は、英語で実施する。ただし、対応困難な場合は、JICA が通訳を手配して対応する。）

(5) 研修の目的：博物館は歴史、自然や文化に関する資料の集積、情報の発信拠点である。人々とともに、地域文化への誇りや環境への意識を高める活動を持続的に行うことで、博物館はコミュニティ開発の中核を担うことができる。本コースでは、途上国の博物館学芸員を対象に、博物館活動に不可欠な実践的手法を習得する総合的な研修を行い、各国の経済・文化振興やコミュニティの観光開発に貢献できる人材を育成することを目的とする。

- (6) 案件目標：参加各国の博物館において地域コミュニティと結びついた博物館の運営が促進され、その為の知識と経験、手法が当該国の博物館等の学芸員、職員間で共有される。また研修を通じて築き上げられた国際的ネットワークによって、その知識・手法の相互の持続的啓発が可能となる。
- (7) 単元目標（アウトプット）
- 1) 自国における博物館活動や自身の専門分野の概要について説明し、関係課題について明確にすることができる。
  - 2) 博物館学の理論と実践についての総論的事項を解説・普及できる。
  - 3) 博物館マネジメントについて、自ら計画を立て、実践・普及できる。
  - 4) 資料収集・整理・保存の方法を体得し実践・普及できる。
  - 5) 資料の展示について、設計・実施のノウハウを体得し実践・普及できる。
  - 6) 博物館における教育と社会連携について、計画を立て、実践・普及できる。
  - 7) 博物館の地域コミュニティへの貢献について、計画を立て、実践・普及できる。
  - 8) 選択した特定の専門分野の能力を伸ばすことができる。
  - 9) 日本で得た知見や技術を用いて、所属博物館の実情に応じた普及プログラム案を作成できる。
- (8) 研修内容
- 1) 研修項目（見込み）
    1. 日本ならびに世界の博物館の歴史と現状、法体系、倫理規定、各国の文化政策
    2. 資料の調査、収集、保存、梱包と輸送、写真撮影、映像記録、データベース化、広報、ミュージアム・ショップの運営、浸水対策
    3. 展示の設計と実際、ユニヴァーサル・デザイン、学校・生涯教育との連携、観光の振興、歴史的記憶の継承、博物館と地域の連携
  - 2) 当機構が実施するプログラム
    - ア. 集合ブリーフィング  
来日時の事務手続き、滞在諸手当の支給手続き等についての説明を、通常来日の翌日に実施する。
    - イ. ジェネラル・オリエンテーション（オンデマンドを予定）  
技術研修に先立って、日本滞在中の必要知識として、日本の政治・経済、歴史、社会制度等についてオリエンテーションを行う。



## 2. 委託業務の内容

### (1) 契約履行期間（予定）

2025年4月21日～2026年3月13日

（この期間には、事前準備・事後整理期間を含みます）

### (2) 業務の概要

人文社会系、自然系博物館、あるいは文化遺産管理機関に所属する研修員に対して、研修目標達成のために地域コミュニティと結びついた博物館の運営に必要な知識と経験、手法についての研修を行う。

#### ① 講義：

テキスト・レジュメ等を準備し、必要に応じて視聴覚教材を利用して研修員の理解を高めるよう工夫する。なお、これらの翻訳・印刷が必要な場合には、原則 JICA 又は JICA が指定する団体を通じて行うため、これらとの密な調整を行うこと。

#### ② 演習：

講義との関連性を重視し、テキストを参照しながら講義で学んだ内容の確認と応用力を養えるように工夫し、帰国後の実務に役立つことを目指す。

#### ③ 見学・研修旅行：

講義で得られた知見を基に、現場視察や関係者との意見交換を通じて、研修員が当該研修分野に関する理解を深められる研修計画を策定する。なお、旅行に伴う移動手段・宿泊は、原則として JICA 又は JICA が指定する団体を通じて行うため、これらとの密な調整を行うこと。

#### ④ レポート作成・発表：

各レポートの作成・発表に当たっては、各研修員の問題意識について研修員・日本側関係者間で相互理解を深めるよう配慮し、併せて帰国後の問題解決能力を高めるよう努める。

### (3) 詳細

- 1) 研修日程調整及び研修詳細計画書の様式を用いた日程案の作成
- 2) 講師・見学先・実習先の選定
- 3) 講義依頼、講師派遣等依頼及び教材作成依頼文書の作成・発信
- 4) 教材の複製や翻訳についての適法利用の確認
- 5) 講師・見学先への連絡・確認
- 6) JICA、省庁、他関係先等との調整・確認
- 7) 講義室・会場等の手配
- 8) 使用資機材の手配
- 9) テキストの選定と準備（翻訳・印刷・配布業務含む）
- 10) 講師への参考資料（テキスト等）の送付

- 11) 講師からの原稿等の取付、配布等の調整、教材利用許諾範囲の確認及び JICA への報告
- 12) 講師・見学先への手配結果の報告
- 13) 研修監理員との連絡調整
- 14) プログラム・オリエンテーションの実施
- 15) 研修員の技術レベルの把握
- 16) 研修員作成の技術レポート等の回収・評価
- 17) 研修員からの技術的質問への回答
- 18) 研修旅行同行依頼文書の作成・発信
- 19) 評価会、技術討論会（各種レポート発表会含む）の準備、出席、討議の先導
- 20) 閉講式実施補佐
- 21) 研修監理員からの報告聴取
- 22) 講義・見学謝金支払い、明細書送付を含む諸経費支払い手続き
- 23) 業務完了報告書作成、経費精算報告書作成
- 24) 関係機関への礼状の準備・発信、資材資料返却

### 3. 留意事項

- (1) 当機構は、本研修コース実施にあたって英語－日本語の逐次通訳等を行う研修監理員を1名配置予定です。研修監理員は、JICA が実施する研修員受入事業において、JICA、研修員及び研修実施機関の三者の間に立ち、当該言語を使用しつつ（通訳）、研修員の研理解を促進し、研修効果を高め、研修進捗状況を現場で確認する等、研修コースでの現場調整を行う人材です。JICA は登録された研修監理員の中から、研修コースごとに研修コースの特性等を勘案し、諸条件を提示して個別に業務を発注します（委任契約）。
- (2) 研修員及び同行者（上限1名）の研修旅行にかかる国内移動・宿泊については、当機構が別途委託している旅行会社が手配を行います。
- (3) 研修実施にあたり、受注者は JICA の定める対応要領における新型コロナウイルス感染症等に対する感染症対策を徹底することとします。また、感染者発生時には JICA の定める対応フローに従って対応することとします。
- (4) 本業務概要は予定段階のもので、詳細については変更となる可能性があります。
- (5) 研修員受入事業及び研修委託契約の概要を含む研修委託契約の各種ガイドライン、契約書等については、以下 JICA HP を参照願います。

[https://www.jica.go.jp/activities/schemes/tr\\_japan/guideline.html](https://www.jica.go.jp/activities/schemes/tr_japan/guideline.html)

以 上